

第6回「芥川作曲賞」決まる

権代 敦彦ごんだい あつひこ氏の作品

「DIES IRAE/LACRIMOSAディエス イラエ/ラクリモサ (怒りの日/嘆きの日)」に

「芥川作曲賞」の第6回受賞曲は、8月29日(木)午後18時30分より東京・サントリーホールでの演奏会形式による公開選考の結果、権代敦彦氏の作曲による「DIES IRAE/LACRIMOSAディエス イラエ/ラクリモサ (怒りの日/嘆きの日)」に決定した。同氏には、賞状とあわせて賞金50万円が贈られる。

芥川作曲賞は、戦後のわが国音楽界の発展に多大の貢献をされた故芥川也寸志氏の功績を記念して、サントリー音楽財団が日本作曲家協議会の支援を得て1990年4月に創設したもの。故人の深い音楽愛、明晰な音楽観と音楽の振興によせられた熱情を追慕して、わが国の新進作曲家のもっとも清新にして将来性に富む作品を対象に、演奏会形式により公開選考するという、作曲賞としてはわが国で初めてのユニークな試みとなっている。

なお、この日、公開選考演奏会に先だて、第4回受賞者・江村哲二氏の受賞記念サントリー音楽財団委嘱作「プリマヴェーラ(春)」の初演が行われた。

▽第6回「芥川作曲賞」

権代 敦彦 (ごんだい あつひこ)

<受賞理由>

4つのグループにわけられたオーケストラ群から出現する巨大なエネルギーにみちた音響は、音楽の新しい領域を開拓した力作と高く評価された。

<略歴>

1965年9月6日東京都生まれ(30歳)。桐朋学園大学音楽学部作曲科を経て、90年同大学研究科修了。その後フライブルク音楽大学現代音楽研究所に留学。91年よりIRCAM(フランス国立音響音楽研究所)でコンピュータ音楽を研究、イタリアのチッタ・ディ・カステロ市にて研修。作曲を、末吉保雄、クラウス・フーバー、フィリップ・マヌリー、サルヴァトーレ・シャリーノの各氏に、オルガンをジグモント・サットマリー氏に師事。現在、パリと東京を拠点に作曲活動を行っている。

85年<ミサ曲>で文化庁舞台芸術創作奨励特別賞を史上最年少(20歳)で受賞し、88年に初演される。86年<マラナ・タ>が日本音楽コンクール作曲部門(管弦楽)に

入選。87年には<グッド・フライデー・プロセッション>が同コンクール作曲部門（室内楽）で第1位。89年、90年、名古屋市文化振興賞受賞。91年イタリア・ブッキ国際作曲コンクール第1位、92年ポーランド・セロツキ記念国際作曲家コンペティション第2位およびドイツ・メック出版社特別賞、93年アメリカ・バーロウ基金作曲賞、96年出光音楽賞受賞。作曲以外にも演奏会の企画、プロデュースも熱心に行っている。

第6回芥川作曲賞 選考経過

1. 1996年5月2日（木）午後1時より東京紀尾井町、ザ・フォーラムにおいて第一次選考会を開催。1995年4月1日より1996年3月31日の間に国内外で初演された日本人作曲家の管弦楽作品60数曲を対象に選考し、芥川作曲賞にふさわしい清新にして豊かな将来性を秘めた以下3作品を「第6回芥川作曲賞」の候補に選定した。選考委員は池辺晋一郎、松村禎三、黛 敏郎の3氏。（50音順）

●権代敦彦作曲 $\overset{\text{ディエス}}{\text{DIE S}} \quad \overset{\text{イラエ}}{\text{IRAE}} / \overset{\text{ラクリモサ}}{\text{LACRIMOSA}}$ (怒りの日／嘆きの日)
(初演：1995.12.26「京都市交響楽団第380回定期演奏会」)

●金子仁美作曲 フルート協奏曲
(初演：1995.9.18「オーケストラ・アンサンブル
金沢第51回定期演奏会」)

●立原 勇作曲 “Sinfonia” — for Orchestra —
(初演：1995.7.14 日本交響楽振興財団主催
「現代日本のオーケストラ音楽第19回演奏会」)
(演奏順)

2. 1996年8月29日（木）、午後18時30分よりサントリーホールにおいて上記3曲を公開演奏（指揮＝小松一彦、新日本フィルハーモニー交響楽団）。演奏終了後、15分の休憩をはさんで、直ちにステージにおいて3選考委員による公開選考を行った結果、「第6回芥川作曲賞」受賞曲に権代敦彦氏の作曲による「 $\overset{\text{ディエス}}{\text{DIE S}} \quad \overset{\text{イラエ}}{\text{IRAE}} / \overset{\text{ラクリモサ}}{\text{LACRIMOSA}}$ （怒りの日／嘆きの日）」が選定された。

3. 公開選考終了後直ちに同ステージにおいて贈賞式が行われ、サントリー音楽財団理事長・佐治敬三より賞状、賞金（50万円）が授与された。
なお、権代敦彦氏には、サントリー音楽財団より交響管弦楽曲の新作が委嘱され、完成次第同財団主催のコンサートで初演される。（委嘱料100万円）

〔ご参考〕

「芥川作曲賞」について

1. 名 称

「芥川作曲賞」

2. 選考対象

毎年、前年の4月1日から翌3月31日の間に国内外で初演された（放送を含む）新進日本人作曲家による交響管弦楽曲の中からもっとも清新かつ将来性に富む作品1曲を選定します。

3. 選考委員

芥川作曲賞運営委員会（サントリー音楽財団より4名、日本作曲家協議会より3名、計7名で構成）が数名の選考委員を委嘱します。（本年は、池辺晋一郎、松村禎三、黛敏郎の3氏。）

4. 賞

- （1）賞状、賞金50万円。
- （2）受賞作曲家に新しい交響管弦楽曲を委嘱します。委嘱料100万円。
- （3）委嘱作品は完成後、サントリー音楽財団の主催する公演で初演します。

5. 選考方法

- （1）第一次選考会において候補作品数曲を選出します。
- （2）公開演奏会形式で最終選考会を開きます。選考方法としては、まず候補作品数曲を一括演奏し、終了後その場で選考委員が公開討議を行ない、受賞作1作を選定、贈賞します。

6. 贈賞期間

1991年より2000年までの10年に10回の贈賞を行います。

●過去の受賞者

- | | |
|------------|--|
| 第1回（1991年） | 高橋 裕 <Symphonic Karma> |
| 第2回（1992年） | 山田 泉<一つの素描 ピアノとオーケストラによるII> |
| 第3回（1993年） | 菊池幸夫<ピアノと管弦楽のための「曜変」>
猿谷紀郎<ファイバー・オブ・ザ・ブレス（息の綾）> |
| 第4回（1994年） | 江村哲二<ヴァイオリン協奏曲第2番「インテクステリア」> |
| 第5回（1995年） | 伊左治 直<畸形の天女／七夕> |

以 上